



NISSAY
ASSET MANAGEMENT

ニッセイ・ジャパンA I 関連株式ファンド

愛称：ジャパンA I 革命

追加型投信／国内／株式

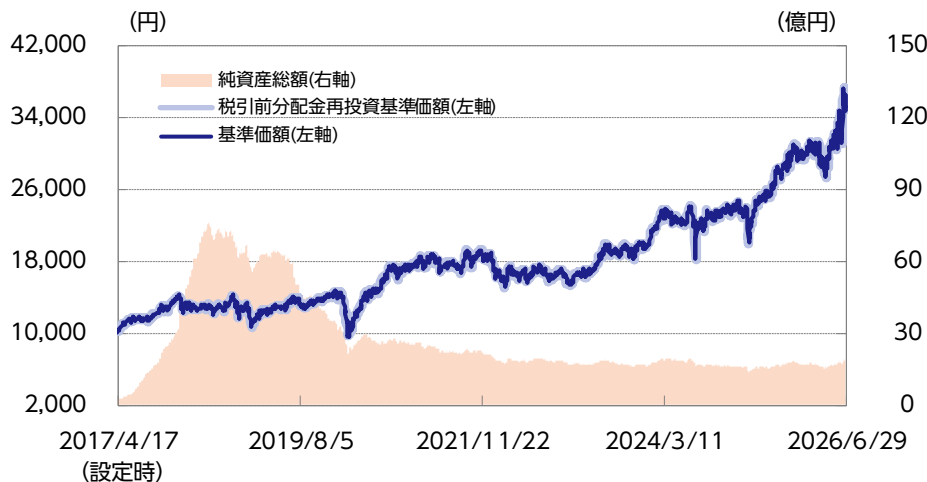
マンスリーレポート

2026年6月末現在



運用実績

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	35,204円
前月末比	1,683円
純資産総額	18億円

分配の推移（1万口当り、税引前）

第3期	2020年04月	0円
第4期	2021年04月	0円
第5期	2022年04月	0円
第6期	2023年04月	0円
第7期	2024年04月	0円
第8期	2025年04月	0円
第9期	2026年04月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率（税引前分配金再投資）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	5.0%	28.8%	18.3%	36.5%	81.1%	252.0%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります（個人受益者の場合）。

※ファンド騰落率は分配金（税引前）を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

マザーファンドの状況

組入比率

株式	97.6%
うち現物	97.6%
うち先物	—

※対純資産総額比

市場別組入比率

市場区分	銘柄数	比率
東証プライム	34	95.0%
東証スタンダード	2	5.0%
東証グロース	—	—
その他	—	—
合計	36	100.0%

※対組入株式評価額比

組入上位10業種

	業種	比率
1	電気機器	50.4%
2	化学	12.6%
3	機械	11.1%
4	情報・通信業	6.3%
5	サービス業	6.3%
6	医薬品	5.0%
7	非鉄金属	4.4%
8	卸売業	3.6%
9	ガラス・土石製品	0.5%
10	—	—

※対組入株式評価額比

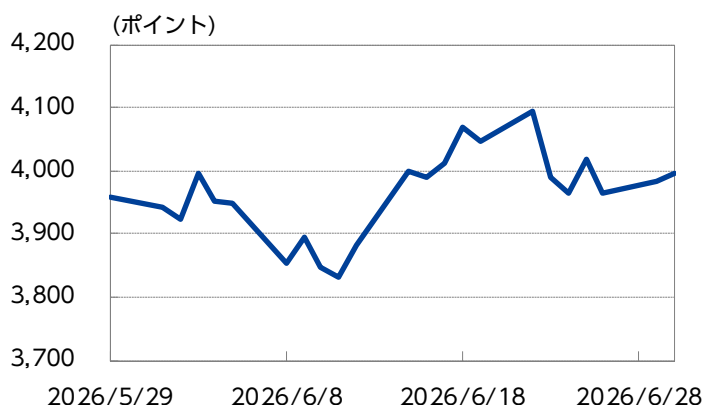
組入上位10銘柄

	銘柄	業種	比率	A I 関連トピックス
1	ダイフク	機械	6.0%	物流自動化のグローバルリーダー。A I やデジタルツイン技術を駆使し、事前にバーチャル空間で検証を行う「スマート・ロジスティクス」を提供。開発の加速と納入品質の向上を強みに市場を牽引。
2	ルネサスエレクトロニクス	電気機器	5.0%	A I サーバーに不可欠な、超大電流を精密に制御する「電源 I C」の需要が急増。過去のM&Aで培った高い製品競争力を武器に、サーバー1台あたりの同社製品の搭載金額（シェア）拡大が期待される。
3	大塚ホールディングス	医薬品	5.0%	日本 I B Mとの合併を軸に医療A I を推進。強みである精神科領域の知見と電子カルテのデータ解析を融合し、精神科医療を支援するなど、他社が模倣できない「メディカルテック」としての成長を見込む。
4	S C R E E Nホールディングス	電気機器	4.4%	A I 半導体やH B M（高帯域幅メモリー）の製造に不可欠な「ウエハ洗浄装置」で世界シェア首位。半導体の微細化に伴い洗浄工程が増加する中、A I 投資の拡大局面を捉えて高い成長が期待される。
5	ソフトバンクグループ	情報・通信業	4.0%	「ソフトバンク・ビジョン・ファンド」等を通じ、A I が人間の知能を超える「シンギュラリティ」を見据え、世界の最先端A I 企業へ投資。投資会社としてグローバルなA I 進化からの投資リターンを享受できる点を評価。
6	デクセリアルズ	化学	3.9%	A I サーバーの普及に伴い、熱対策や超高速信号伝送の重要性が急増。同社の持つ異方性導電膜（A C F）や熱伝導性シートなどの最先端機能性材料は、A I インフラの性能向上に必要不可欠。
7	ミスミグループ本社	卸売業	3.6%	蓄積した膨大な製造業データを、独自のA I 自動見積もりシステム（meviy）に活用。顧客の設計・調達コストを劇的に削減することで、デジタル時代における圧倒的な顧客基盤の強化と事業競争力の向上が期待される。
8	キオクシアホールディングス	電気機器	3.5%	大量のデータを処理する生成A I の普及には、大容量メモリが欠かせない。同社の最先端3次元フラッシュメモリ技術は、A I データセンターのストレージ（記憶装置）として不可欠であり、強い需要の恩恵を受ける。
9	古河電気工業	非鉄金属	3.4%	A I データセンターの急増に伴う発熱問題に対し、独自の「水冷・液浸技術（液冷ソリューション）」や、半導体製造用の「加工レーザー技術」で貢献。通信用光ファイバや電力網関連製品を含め、A I インフラを足元から支える。
10	アドバンテスト	電気機器	3.4%	生成A I 用のプロセッサやH B M（高帯域幅メモリー）の製造において、不可欠となる「超高速半導体テストシステム」で世界シェア首位。半導体の複雑化に伴い検査の重要性が高まる中、強い業績成長が期待される。

※対組入株式評価額比

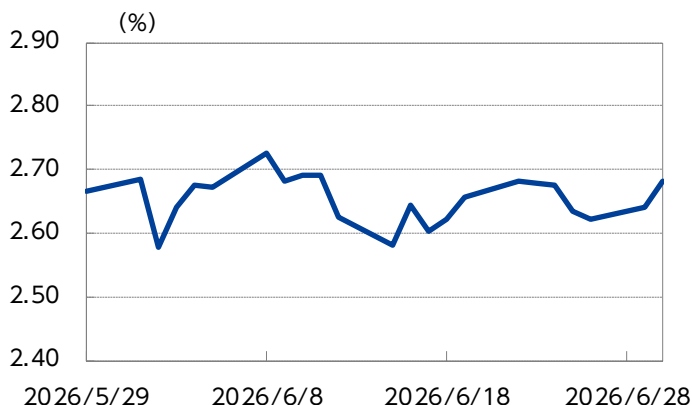
マーケットの状況

TOPIXの推移



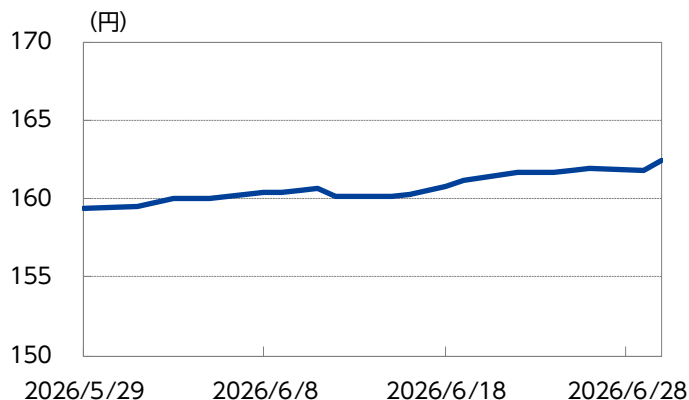
※東証株価指数のデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

日本金利（10年国債）の推移



※ブルームバーグのデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

為替（米ドル・円レート）の推移



※対顧客電信売買相場仲値のデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

当月の市況動向

当月の国内株式市場は上昇しました。

上旬は、日銀の追加利上げ観測の高まりや中東情勢の先行き不透明感が相場の重荷となり、軟調に推移しましたが、中旬に入ると、米国とイランが戦闘終結に向けた覚書に合意したことなどを好感し、上昇しました。下旬は、政府により官民投資計画の詳細が発表され、戦略17分野への期待が高まる一方、海外において人工知能（A I）向けデータセンターへの巨額投資の収益化に対する懸念が再燃したことで、上値の重い展開となったものの、月間では上昇しました。

日経平均株価の月末終値は70,062.32円（前月末比+3,732.82円）となりました。東証株価指数（TOPIX）の月末終値は3,994.76ポイント（前月末比+37.59ポイント）、JPX日経インデックス400の月末終値は36,302.01ポイント（前月末比+294.02ポイント）となりました。

業種別では、電気機器、銀行業、サービス業、ガラス・土石製品、食料品などが上昇しましたが、卸売業、情報・通信業、鉱業、石油・石炭製品、輸送用機器などが下落しました。

主な株式指標の騰落率は、日経平均株価が+5.6%、TOPIXが+0.9%、JPX日経インデックス400が+0.8%となりました。

ファンドの状況
当月末の基準価額は35,204円となり、前月末比+1,683円となりました。 基準価額騰落率は+5.02%となりました。 組入銘柄では、S C R E E Nホールディングス、キオクシアホールディングス、イビデン（いずれも電気機器）等がプラスに寄与しましたが、ソフトバンクグループ（情報・通信業）、ファナック（電気機器）、大塚ホールディングス（医薬品）等がマイナスに寄与しました。 S C R E E Nホールディングスは、「A I の設備投資サイクルはこれまでの想定よりもはるかに巨大で長期間にわたって続く」という市場見通しの高まりにサポートされ、半導体製造装置の需要増期待から、株価は大きく上昇しました。 ソフトバンクグループは、出資先である米オープンA I のI P O（新規上場）延期報道や、同社株を担保とした資金調達交渉の難航や財務面のリスク上昇が嫌気され、株価は軟調に推移しました。 主な買入銘柄は、古河電気工業（非鉄金属）、リクルートホールディングス（サービス業）です。主な売却銘柄は、ファナック、キーエンス（いずれも電気機器）です。
今後の見通しと運用方針
米国を中心に中長期的な視点から生成A I インフラの構築に向けた投資が加速しています。A I データセンターの収益化懸念はくすぶるものの、急速な需要の高まりに伴いエネルギー・電源関連、最先端の部品や素材の不足が深刻化しており、生産能力の増強が急務となっています。こうした変化は、関連製品に強みを持つ日本企業にとって巨大なビジネスチャンスになると期待されます。一方で、中東情勢や米中間の覇権争いに伴うサプライチェーンの混乱、各国の防衛費拡大がもたらす財政悪化やインフレの動向には注意が必要です。こうした環境下、強力な業績成長ドライバーを有する企業、高い事業競争力を背景に独自成長が可能な企業、あるいは資本効率改善による収益性向上が期待できる企業など、ボトムアップ・リサーチに基づいて銘柄を厳選した投資を徹底してまいります。 国家戦略としての「Society 5.0」（超スマート社会）は2016年1月の「第5期科学技術基本計画」にて公式に打ち出されました。その流れは最新の技術動向を踏まえた2026年度開始の「第7期科学技術・イノベーション基本計画」へと引き継がれ、さらなる発展を遂げています。同計画では、A I が「国家戦略技術領域」として位置づけられ、研究開発から社会実装までの一気通貫支援が推進されるとともに、官民合わせて180兆円という意欲的な研究開発投資目標が掲げられました。国内外で、医療・モビリティ・製造・物流・金融などの分野においてデータ連携基盤やA I インフラの整備が進展しており、関連市場は中期的な拡大が期待されます。特に、A I が科学研究そのものを変革する「AI for Science」の推進や、A I 普及に向けたデータセンター構築のための官民投資が急拡大する中、最先端製品の製造・開発能力を有する日本企業への注目度は一段と高まっています。今後も、A I 分野において適切な経営戦略を実行し、成長市場の恩恵を享受できる可能性の高い企業を厳選することで、ポートフォリオの一段の改善に取り組む所存です。 当ファンドのポートフォリオ構築に当たっては、「A I に関連する製品・サービスを開発・提供する企業やA I を活用して事業展開する企業」をコア銘柄としています。今後も個別企業とのミーティングや徹底した調査・分析に基づく中長期業績予測をもとに、割安かつ成長が期待される銘柄に投資を行い、ファンドの中長期的な成長を目標に運用を行ってまいります。

運用体制

原則作成基準日時点で入手しうる情報に基づきます。

2026年3月31日時点	
運用責任者	三国 公靖※
経験年数	37年
運用担当部	株式運用部

※当ファンドの運用は三国公靖氏を運用責任者とするチームにて運営しております。

ファンドの特色

- ①日本の株式の中から、主にA I（人工知能）関連企業の株式に投資を行います。
- 当ファンドにおけるA I関連企業とは、A Iに関する製品・サービスを開発・提供する企業やA Iを活用して事業を展開する企業をさします。

A I（人工知能）とは、Artificial Intelligenceの略で、学習・推論・判断といった人間の知能のもつ機能を備えたコンピュータ・システムのことをさします。

- ②銘柄選定は、ニッセイアセットマネジメントが徹底した調査・分析に基づき行います。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

株式投資リスク	株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

❗ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- ファンドは、特定のテーマに絞った株式への投資を行います。したがって、株式市場全体の値動きとファンドの基準価額の値動きが大きく異なる場合、また、より幅広いテーマで株式に分散投資するファンドに比べ基準価額の変動が大きくなる場合があります。

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要がある場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。
これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受付けを中止する、また既に受付けた換金の申込みの受付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性などがあります。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を差引いた額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時30分までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。ただし、申込締切時間は販売会社によって異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にご確認ください。
決算・分配	決算日	4月25日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	2027年4月26日まで（設定日：2017年4月17日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除の適用があります。なお、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の対象となりますが、当ファンドは、NISAの対象ではありません。

! ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の基準価額に 3.3%（税抜3.0%）を上限 として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に 0.3% をかけた額とします。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
毎 日	運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に 年率1.694%（税抜1.54%） をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.011%（税抜0.01%）をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。
随 時	その他の費用・手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。 また、ファンドが「ニッセイ・ジャパンA I 関連株式マザーファンド」を換金する際には、信託財産留保額※をファンドからご負担いただきます。 ※ニッセイ・ジャパンA I 関連株式マザーファンドの基準価額に0.3%をかけた額。 なお、投資者が実質的に負担する信託財産留保額は、前記「投資者が直接的に負担する費用」に記載の信託財産留保額となります。

- ❗ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ❗ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- ・外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- ・法人の場合は上記とは異なります。
- ・税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00～17:00（土日祝日・年末年始を除く） ホームページ https://www.nam.co.jp/
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	
三菱UFJ信託銀行株式会社	

ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のもとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ⑨当資料の内容は原則作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合もあります。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取 扱 販 売 会 社 名	金融商品 取引業者	登録金融 機関	登 録 番 号	日本証券業 協会	一般社団法人 資産運用業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業 協会
光世証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第14号	○			
K O Y O証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第1588号	○			
株式会社証券ジャパン(※3)	○		関東財務局長(金商)第170号	○	○		
中銀証券株式会社	○		中国財務局長(金商)第6号	○			○
東海東京証券株式会社(※1, ※3)	○		東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
内藤証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第24号	○			○
西日本シティ T T 証券株式会社	○		福岡財務支局長(金商)第75号	○			
百五証券株式会社	○		東海財務局長(金商)第134号	○			
株式会社但馬銀行(※2)		○	近畿財務局長(登金)第14号	○			
株式会社南都銀行		○	近畿財務局長(登金)第15号	○			

(※1)一般社団法人日本STO協会にも加入しております。

(※2)インターネットのみのお取扱いとなります。

(※3)現在、新規申込の取り扱いを行っておりません。